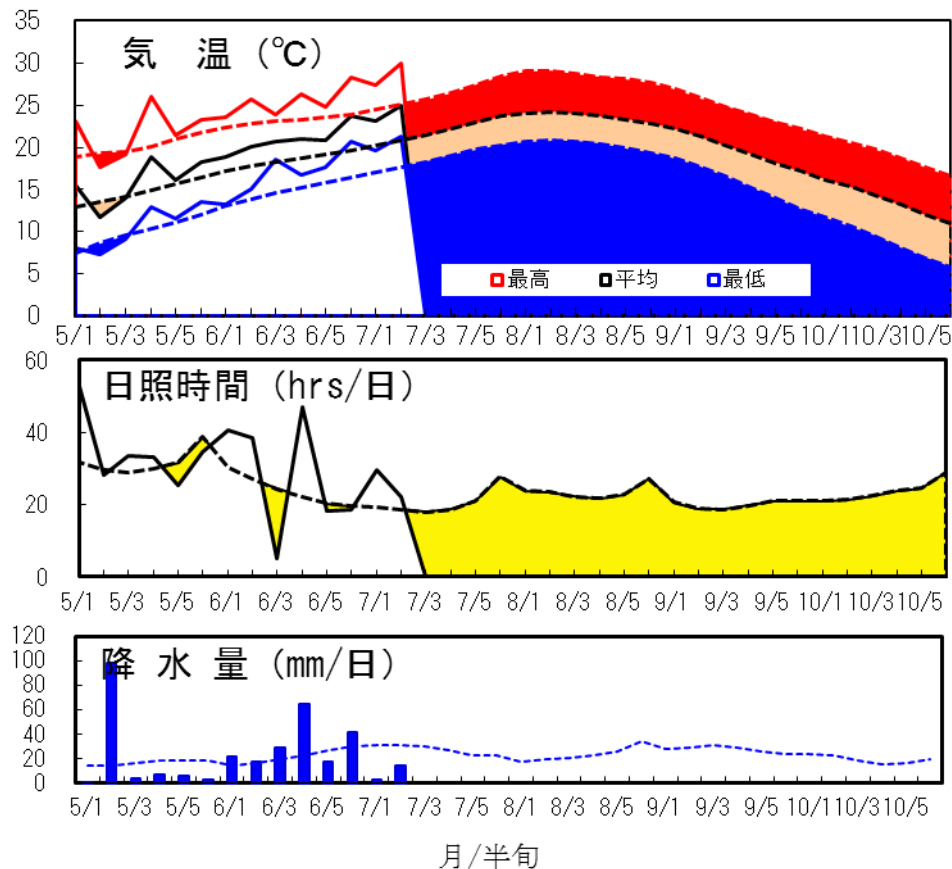


～出芽揃いは良好で 主茎長は平年よりかなり長い～

～中耕培土を適期に実施し 倒伏を防ぎましょう～

～雑草防除は草種をよく見て 適切な剤を使いましょう～

1 気象経過



- ・播種後の気温は、5月第6半旬から6月第6半旬まで高温で経過した。
- ・日照時間は、6月第1半旬から第2半旬と第4半旬で多照、6月第3半旬が少照だった。
- ・降水量は、5月第6半旬で少雨、6月は第5半旬を除き多雨で経過した。

2 生育状況

【宮城県古川農業試験場 作況試験より】

① 5月25日播種

- ・出芽日数は平年並みの7日だった。播種日前後に降雨があったことから、播種から出芽までの土壌水分は適度となり、出芽揃いは良好であった。

② 6月14日播種

- ・播種後に豪雨があり土壌クラストが生じたが、土壌クラストを除去したため、出芽揃いは概ね良好だった。

出芽状況

品種名	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽日数		
			本年	前年差	平年差
タンレイ	5/25	6/1	7日	1日早い	0日
ミヤギシロメ	5/25	6/1	7日	2日早い	0日
ミヤギシロメ	6/14	6/21	7日	1日遅い	—

注1) 出芽日数は播種翌日から出芽期までの期間

注2) 平年差は過去5か年 (H30~R4) の平均値との差

注3) 6/14播種のミヤギシロメはR4からのデータなので平年値は無い

- ・主茎長は、41~43cm「タンレイ」、「ミヤギシロメ」とも平年より16cm、前年より19cm長かった。
- ・主茎節数は、9.3~9.6節で平年より1.5節多く、前年より1.7~1.9節多かった。
- ・分枝数は1.9~2.1本で平年より1.3~1.6本多く、前年より1.2~1.4本多かった。
- ・総節数は14.5~14.9節で平年より4.1~5.1節多く、前年より4.3~5.0節多かった。

生育調査結果 (7月5日調査)

播種期	品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)			総節数(節/本)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	41	19	16	9.6	1.9	1.5	1.9	1.2	1.3	14.5	4.3	4.1
	ミヤギシロメ	43	19	16	9.3	1.7	1.5	2.1	1.4	1.6	14.9	5.0	5.1

注1) 平年差は過去5か年 (H30~R4) の平均値との差

注2) 栽植密度は、条間75cm×株間20cmとした (1株2粒播種)

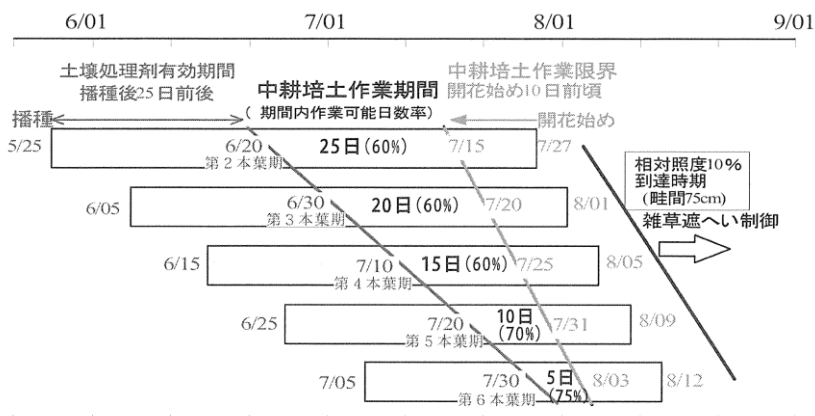
3 今後の管理

1 湿害対策

- ・排水対策の重要な時期は、①播種直後の発芽期、②根粒着生から開花前までの生育前期と③子実が肥大する生育後期である。
- ・生育後期は湿害により未熟粒や障害粒が発生するので、登熟を良好にするために排水対策が重要となる。
- ・葉が黄化しているほ場では、過湿によって土壌が酸素不足になり、根粒菌の活性が低下していると考えられる。そのため、停滞水を早めに排水するとともに、硫酸などの速効性肥料を窒素成分で3kg/10a程度の追肥を行い、被害軽減を図る。

2 中耕培土

- ・中耕培土は、培土部分からの不定根の発生 (養水分吸収力のアップ、不定根に着生する根粒による窒素固定)、倒伏防止、通気性改善、除草効果等、多くの効果が期待できる。
- ・播種後に散布する除草剤 (土壌処理剤) の有効期間は、下図のとおり播種後25日前後とされている。また、5月下旬に播種をすると7月下旬には開花が始まることから、開花10日前までに中耕培土を終えることを基本とする。中耕培土の作業期間は限られてくることから、下図を参考にして中耕培土の作業計画を立てる。



【中耕培土作業可能期間設定のめやす】

◆培土の目安は、右図を参考にする。

・普通栽培（5月下旬～6月上旬播種）では、1回目は本葉2～3葉期に子葉節がかけられる高さまで、2回目は6～7葉期に初生葉がかけられる高さまで行う。

・晩播栽培（6月中旬～7月播種）では、大豆の繁茂量が少ないので、排水と雑草防除を主体に1回程度とし、本葉5～6葉期に子葉節がかけられる程度の高さまで行う。

・株本までしっかり土寄せすることで、土中の茎下部から不定根が発生する。

・雨が多く、1度も中耕・培土が実施できなかった場合は、開花が近づいていても培土を実施することで、大豆の生育量を確保することができる。

・特に今年は主茎長が長いので、適期に培土を実施して、倒伏を予防する。ミヤギシロメについては、「摘芯処理」も有効である。

宮城県「普及に移す技術」第96号（農業・園芸総合研究所HP）参照。



【培土のめやす】

3 雑草防除

・「広葉雑草対象」の除草剤として、「大豆バサグラン液剤（ベンタゾン塩液剤）」と「アタックショット乳剤（フルチアセットメチル乳剤）」が普及に移されている。この2剤は、気象条件によって除草効果に変動がみられるので、注意が必要である。

① 大豆バサグラン液剤

散布後24時間以内の日照時間が少ないと、効果が低下する場合がある。すなわち、曇天や降雨日を避け、散布後も日照に恵まれると予想される天候時に散布すると、効果が高まる。

② アタックショット乳剤

散布前後48時間の平均気温が25℃以上だと、効果がやや低下する場合がある。

・大豆バサグラン液剤は「オオイヌタデ」や「アメリカセンダングサ」に効果が高く、アタックショット乳剤は「ホソアオゲイトウ」や「イヌホオズキ」に効果が高い。なお、雑草の大きさからみた散布適期については、下図（令和5年度宮城県大豆研修会資料）を参照のこと。

主要雑草における大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤の比較

オオ イヌタデ	F 2葉・3cmまで B 15cmまで	アレチウリ	F 5葉・つる化前まで B 5葉・つる化前まで
アメリカ センダングサ	F — B 20cmまで	マメ アサガオ	F 4葉・つる化始まで B 3葉・つる化前まで
シロザ	F 4葉・5cmまで B 2葉・3cmまで	アメリカ アサガオ	F 2葉まで B 2葉まで
ホソアオ ゲイトウ	F 6葉・10cmまで B 3葉・3cmまで	イチビ	F 6葉・15cmまで B 6葉・15cmまで
イヌ ホオズキ	F 10cmまで B 6葉・5cmまで	オオ オナモミ	F 4葉・10cmまで B 6葉・15cmまで
(凡例・散布薬量) F アタックショット乳剤 50mL/10a B 大豆バサグラン液剤 150mL/10a		オオブタクサ クサネム ツユクサ	F・Bともに 効果が小さい～ない

- ・アタックショット乳剤は、大豆に褐変等の症状を発生させることが、メーカーから公表されている。特に、処理前後 48 時間の平均気温が 23℃以下だと、下図のように強い薬害症状がみられる場合がある。

処理前後 48 時間の平均気温：20.1℃



処理前後 48 時間の平均気温：26.4℃



図1 フルチアセットメチル乳剤による薬害症状(処理後3~4日)

注) 品種はタンレイで、大豆2葉期に処理した

【宮城県「普及に移す技術」第94号 宮城県農業・園芸総合研究所HPより抜粋】

- ・また、アタックショット乳剤の薬害症状には、品種間差がみられる。現在、宮城県の優良品種において、下表のとおり品種間差が確認されている。

薬害リスク	品種	備考
小	ミヤギシロメ, タンレイ, きぬさやか	減収につながる生育抑制を生じた事例がない
小~中	あやこがね	タンレイと比較して、初期の生育抑制が強い場合があるが、開花期の20日後までに回復することが多い
中	タチナガハ, すずほのか	タンレイと比較して、初期の生育抑制が強く、その後の回復が不十分となる場合がある

【宮城県「普及に移す技術」第94号 宮城県農業・園芸総合研究所HPより抜粋】

- ・新しい優良品種「すずみのり」に対する薬害リスクは、「小」と推定されている（令和5年度宮城県大豆研修会資料）。

◆7/6発表 東北地方の1か月予報（7月8日~8月7日までの天候見通し）【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率70%、平年並みの確率20%、低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/08~08/07	10 (低い) 20 (平年並) 70 (高い)
		1週目 07/08~07/14	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		2週目 07/15~07/21	10 (低い) 20 (平年並) 70 (高い)
		3~4週目 07/22~08/04	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/08~08/07	20 (低い) 40 (平年並) 40 (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/08~08/07	40 (低い) 30 (平年並) 30 (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

新しい優良品種「すずみのり」を作ってみませんか？

- ◆長野県で育成された品種で、令和2年4月に長野県から品種登録出願。
- ◆タンパク質含有率が高く、豆腐・味噌の原料として有望。令和4年3月に宮城県で優良品種に採用。

1 「すずみのり」の特徴

- ・「タチナガハ」と5月下旬の標播栽培で比較すると、開花期は同等で、成熟期は2～5日早い。
- ・最下着莢高が高く、難裂莢性で、コンバイン収穫に適している。
- ・「タチナガハ」より青立ちはやや少ない。
- ・子実はやや大粒で、紫斑粒、裂皮粒、しわ粒の発生は「タチナガハ」と同等～やや少なく、外観品質は「タチナガハ」に優る。
- ・「タチナガハ」よりタンパク質含有率が高く、豆腐や味噌への加工適性も「タチナガハ」より優れている。
- ・「タチナガハ」と同様に「ダイズシストセンチュウ」に弱い。また、晩播では「タチナガハ」より収量が劣る。

調査地	古川農業試験場			
調査年次	平成26～令和3年			
栽培条件 ^{注1)}	標播		晩播	
品種名	すずみのり	タチナガハ	すずみのり	タチナガハ
開花期(月日)	7/29	7/30	8/9	8/10
成熟期(月日)	10/27	10/29	10/31	11/4
倒伏程度(0-4) ^{注2)}	1.8	1.5	1.9	1.8
萎化程度(0-4)	0.1	0.0	0.1	0.1
主莖長(cm)	87	83	86	79
最下着莢高(cm)	22.8	21.7	25.4	22.2
主莖節数(節)	16.1	16.1	13.3	13.4
分枝数(本/株)	10.0	9.2	5.8	5.7
子実重(kg/a)	48.1	44.3	41.4	45.3
(対比)	109	100	91	100
百粒重(g)	37.4	38.6	36.3	39.0
品質	上の下	中の上	中の上	中の上

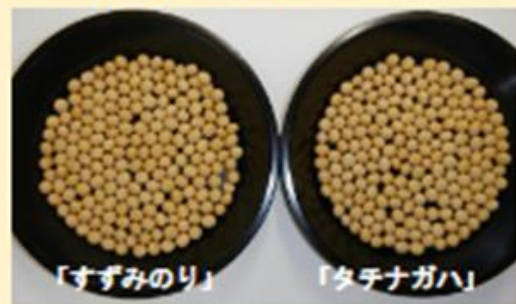
【宮城県 普及に移す技術 第97号】より

「すずみのり」の豆腐加工適性

試験名	豆乳抽出試験				豆腐加工試験
	蛋白質 (%)	抽出率 (%)	固形分 (%)	粘度 (mPa·s)	破断強度 (g/cm ²)
すずみのり (a)	5.4	78.9	10.15	12.9	95
タチナガハ (b)	5.1	78.9	9.96	12.3	80
比較 (a/b=100)	106	100	102	105	119

※ 令和4年度 加工試験結果

「すずみのり」の外観



【大豆優良品種「すずみのり」栽培マニュアル 宮城県】より

2 生産振興計画

- ・今後の需要をみながら、令和7年産作付目標「1,250ha（タチナガハの作付面積の約50%）・2,500ト」を目指す。

3 栽培のポイント

- ◆排水対策、播種の深さ、肥培管理や栽植密度は、基本的には「タチナガハ」等とほぼ同じ。
- ◆「晩播栽培」では収量が劣るので、「標播栽培（5月下旬～6月上旬播種）」を基本とする。